

---

# 私と雀

六畠半

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

私と雀

### 【著者名】

NZマーク

六畠半

### 【あらすじ】

君はただ、思っている。僕はただ、見つめていた。

## (前書き)

この作品は、すでに投稿していた『くだらない話』を続編の執筆にあたつて改名したものです。内容、文章とともに『くだらない話』と差異はありません。

薄暗い小さな部屋。窓から差し込む淡い光芒<sup>ヒヤウモウ</sup>がかすかに床に届いている。

「本当にぐだらなくて、どうでもいい話なんだけどね」

部屋の中央。白いベッドの上で、上体だけを起こして座っている女が唐突にそう言った。静まり返ったこの部屋には不相応なほどに澄んだ声だった。

「何? 言つてみてよ」

ベッドのすぐ横。緑の丸イスに腰掛けた男が、女の発言を促すように言つた。

「その窓の向こうに金木犀<sup>キンモクセイ</sup>が有るじゃない? その枝に昨日、雀が一羽止まっていたの」

「へえ、可愛かつた?」

「ええ、とても」

女は男のほうを見て、目を細めながら嬉しそうに言つた。その破<sup>ハ</sup>顔<sup>がん</sup>に思わず表情をほころばせた男が、期待もあらわに尋ねる。

「その雀がどうかしたの?」

尋ねられた女は少し俯いた。そしてもう一度男の方を見て嬉しそうに言つた。

「翼が無かつたの。両方とも」

女が興奮を隠し切れずに体を揺らした。お腹の辺りまで掛かつていた白の掛け布団がずり落ちて、男が如才なく元の位置に戻す。その時に、男の伸ばしていた両腕が女のそれとぶつかった。

「あっ、ごめん」

男が慌てて言つた。その視線は少女の表情を窺つているようだつた。

「気しないで、どうせ有つて無いようなものだもの」

女が視線を落とし、自分の腕を見て言つた。その腕は上腕の中ほ

どまで包帯が巻かれていて、力無く布団の上に置かれている。

女の言葉に内心安堵した男は続けて尋ねた。

「それで、雀を見てどうしたの？」

「とても嬉しかったわ。そう、とても」

「女はかみ締めるようにゆっくりと言った。  
何故、嬉しかったんだい？」

女はそういうわれて少し押し黙つた。そして、どこか記憶を懐かし

むように天井を仰いだ。

「昨日からずっとそれを考えていたの。なんで嬉しかったんだろうって」

女は上田で男を見ながら答えた。みられた男は恥ずかしそうに視線を逸らして尋ねる。

「答えは出た？」

「ええ。今日、あなたを見ていて分かったわ

「教えて欲しいな」

「うん、あのね、私はずっと前からこの両腕が使えないでしょ、そしてその雀も両方の翼が使えない

「うん」

「そう思つたら私は気兼ねなく雀を信じれるような気がしたの。あなたや、他の私を見た人間は、腕の使えない私に、虫<sup>むしう</sup>が走るような憐憫<sup>れんびん</sup>や同情を寄越すけど、その雀はそんな事しないわ。私と同じように腕を失つたのだから、私の苦しみや喜びや願いを素直に受け止めてくれる。そう信じれるから、嬉しかったんだわ」

女は言い終わつた後、にこやかな表情で男を見つめた。男もそれを見つめ返す。

「そつか

男が穏やかな声で言った。

「ね？ つまらなかつたでしょ」

女が言った。お腹の掛け布団がまたずり落ちた。男はそれを見て、目を閉じて言った。

「ああ、とてもくだらない話だ。そう、とても  
女はなぜか満足そうな顔をした。そして、男はすり落ちた掛け布  
団へ手を伸ばす。

(Fin.)

(後書き)

『続・私と雀』に続く

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8322d/>

---

私と雀

2010年12月19日05時46分発行